

# 地域と学校の 協働通信

令和6年3月1日  
武蔵野市教育委員会  
指導課教育推進室

第16号

## 特集

- モデル校の状況報告（学校評価）
- 全校実施に向けた、校長会・副校長会・地域コーディネーター連絡会での説明

## 学校運営協議会機能を有する開かれた学校づくり協議会(モデル校)の報告 ～学校運営協議会として実施する「学校評価」～

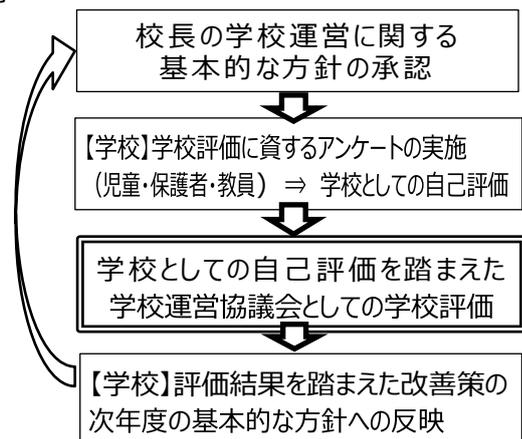
令和6年がスタートしました。モデル校では、学校運営協議会機能における重要な取組である「学校評価」(右図二重線部分)を実施しているところです。

各学校では、この「学校評価」の協議で示された意見や質問等を踏まえて次年度の基本的な方針を策定し、改めて学校運営協議会としての承認を受ける(右図のサイクル)流れとなります。

モデル校の委員からは、授業や行事の見学及び年間を通して学校とかかわった中での気付きや思いを出し合ったり全体で検討したりしながら、「学校評価」を実施していただきました。

以下、境南小学校、第一中学校それぞれの様子について、紹介させていただきます。

### 学校運営協議会として実施する学校評価の流れ



### 境南小学校 第6回・第7回協議会

第8回は、3月11日(火)  
午後6時30分から(予定)

第6回の協議会では、当日の進め方を ①校長先生から自己評価の報告②各委員で評価を記入 ③グループ協議(記録は学習者用コンピュータに打ち込む)とまとめ ④グループからの発表と全体での意見交換、としました。境南小が進めてきた児童の主体性を重視した学習や校内研究について継続してほしいと評価しつつ、その良さや成果が保護者に十分伝わっていないのではないかという趣旨で「保護者・地域との熟議」なども提案されました。また、幼児教育との連携を評価し、中学校との連携も一層推進してほしいとの意見がありました。



グループでは、出てきた意見をその場で学習者用コンピュータに打ち込みました。

第7回は、上記の評価を踏まえ、校長先生が次年度の基本方針を示し、委員による協議・承認に進む会となりました。重点目標としている「よく考える子」、「進んで取り組む子」を達成するための基本方針として、境南小学校では「目的意識をもって自己決定できる」場面の醸成や「仲間とともに学び合う」ことを柱として加えたこと、また、目標を達成するために「人と人との対話を大切に」した取組を進めていきたいとお話がありました。作成している教育課程については、副校長先生、主幹教諭からも詳しい説明がありました。その中で、改めて「一律に提出を求める宿題」は課さないことを特色ある教育活動に位置付けたことについて、委員からも「主体的な学びをゴールとしていて、



宿題を出さないことはあくまでツールであるから、その良し悪しではなく目的がぶれないことが大事ではないか」といった意見がありました。その他にも、保護者、先生などそれぞれの視点での意見や質問がありましたが、最終的には学校運営に関する基本的な方針は拍手で承認されました。

最後に校長先生からは、来年度は協議会の中でぜひ児童と委員の交流をしたいという提案もありました。



## 第一中学校 第7回協議会

第8回は、3月4日(月)  
午後3時からです(予定)



境南小学校と同様に、校長先生からの報告後、グループでの協議を行いました。生徒と保護者・教員との意識(肯定的評価の割合等)が一致していたり違いが顕著だったりする項目を中心に意見が出されました。

「多様な意見が出て学校として整理・活用しにくいのではないか。」との懸念も委員から呈されましたが、各グループからの意見は概ね一致していました。第一中では、現役の大学生やNPO法人の職員など多様な委員による多面的・多角的な意見交換が行われてきましたが、一方で、年間を通して学校に関わる中で、委員の意識の共有がすすんできたことを感じた場面でした。

主な意見は、「生徒がSNSを使うのは止められず、学校の指導だけでは困難で、家庭で話し合いをもっとすべき。また、ルールを破ることは犯罪であることをもっと強調することも必要ではないか。」「先生が生徒を呼ぶときに、名前で呼ぶ生徒と下の名前を呼ぶ生徒が混在するのはよくない。学校全体で共有したい。」などがありました。

次回は、協議会の意見を踏まえた校長先生からの次年度学校経営方針についての協議・承認となります。

## 校長会・副校長会・地域コーディネーター連絡会での説明を実施しました

令和7年度の市立全小・中学校「学校運営協議会」機能を付加した「開かれた学校づくり協議会」実施に向け、モデル校以外の学校からも委員の人数や実施回数を増やして「開かれた学校づくり協議会」を実施していきたいという声をいただいています。

そこで、改めて学校運営協議会機能の意義や全校実施に向けての道程等について、2月の校長会・副校長会及び地域コーディネーター連絡会の中で教育推進室からお話をしました。

特に、「学校運営協議会」の機能を付加していくにあたって各学校に検討いただきたいこととして、

- ① 「学校運営協議会機能」のイメージをもつ ⇒ 例：モデル校見学、文科省等サイトの動画視聴等
- ② 学校・家庭・地域で共有したい「目標やビジョン」を明確にする ⇒ 「育てたい子ども像」が出発点
- ③ 多様性を意識して協議会委員の候補を検討する ⇒ 改めて地域の多様な人材の情報を集める
- ④ 教職員の理解をすすめる ⇒ 「協働通信」の活用等

の4点をお伝えしました。

校長先生・副校長先生からは、①委員の人選や ②会議の回数・時間帯など、運営に関する具体的なご質問が多く寄せられました。教育推進室からは、

- ①多様性を重視し、地域をよく知る地域コーディネーターなどの支援も受けながら人選にあたりとよい
  - ②協議会機能の趣旨を踏まえると現行より回数や時間は必要となるだろうが、委員が参加しやすいことに加え教職員も参画できるような環境づくりを含めて協議会の中で決めていくとよい
- 等をお伝えしました。その後、実際に取組を進めてきたモデル校の校長先生方からも全校実施に向けて参考となる情報提供がありました。

地域コーディネーター連絡会では、「子どもの学び・育ちを支えるため」という一番の目的を旗印として持ち続けていることの重要性が意見としてあがりました。地域団体と学校の関わりや地域行事の在り方など、地域により事情が異なることを前提とした多様な委員の人選となっていくことや、その難しさも話題となっていました。モデル校の地域コーディネーターからは、新しく委員となった方と今後どうつながりを作っていくかや、教員や市の担当者が変わってもその「学校らしさ」についてみんなで協議できる仕組みであることなど、今感じている率直な意見を聞くことができました。

小中学校長会での説明の様子

